

# 琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

## かわら版

—第10号—

事務局：京都府環境部公営企画課  
TEL：075-414-4772 FAX：075-414-5470  
e-mail：koei@pref.kyoto.lg.jp  
～★ 平成27年10月発行 ★～

### 琵琶湖・淀川流域図

— 府県界  
— 流域界  
— 上水供給界



### 構成団体

- ・三重県地域連携部地域支援課  
TEL：059-224-2420
  - ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課  
TEL：077-528-3460
  - ・京都府環境部公営企画課  
TEL：075-414-4772
  - ・大阪府政策企画部  
戦略事業室空港・広域インフラ課  
TEL：06-6943-8054
  - ・兵庫県企画県民部水エネルギー課  
TEL：078-362-3057
  - ・奈良県地域振興部地域政策課  
TEL：0742-27-8029
- [オブザーバー]
- ・(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
TEL：06-6920-3035

### ■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは■

平成15年3月に京都市等で開催された『第3回世界水フォーラム』を契機に、流域6府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

### ■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動■

水質や生態系などの水環境保全には、流域での一体的な取り組みが必要であることから、「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」は、府県が連携し、住民・NPOなど多様な主体との協働のもとで進めていくこととしています。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

— URL：<http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html> —

## ■三重県■ 水でつながる上流（いなか）と下流（都市） ～三重県伊賀市「ふるさとづくり上高尾の会」の取組～

三重県伊賀市の「ふるさとづくり上高尾の会」は、「水でつながる上流（いなか）と下流（都市）」を活動コンセプトに、顔の見える『つながる』ことのできる関係を淀川流域で作っていきたいと考え、京阪神地区の方々との交流活動に取り組んでいます。今では、豊かな自然と魅力あふれる上高尾地区が大好きな京阪神の親子を中心に「上高尾サポートの会」が発足しました。

### 農業体験（米作り）

上高尾サポートの会にとって、田植え～草取り～稲刈りといった米作りは、ただ楽しむだけでなく、米作りの「食」や生きものの「命」を実感する貴重な体験となっています。



### サマーキャンプ（源流巡り）

「古代人の叡智に触れる」をテーマに、都会とは違う豊かな自然の中での生活は貴重な体験となり、年々参加者が増えてきています。



三重県  
伊賀市



ふるさとづくり  
上高尾の会

### 蕁灰こんにやく販売

豊かな自然の中でこんにやく芋を栽培し、昔ながらの製法で加工し、自らの手で販売を手掛ける蕁灰こんにやくの「蕁コンちゃん」は完売となるほどの人気商品となりました。



### 案山子づくり

子どもたちが一生懸命作った、色とりどりの案山子（かかし）が、農村ににぎわいを与え、通行人を笑顔にしてくれます。



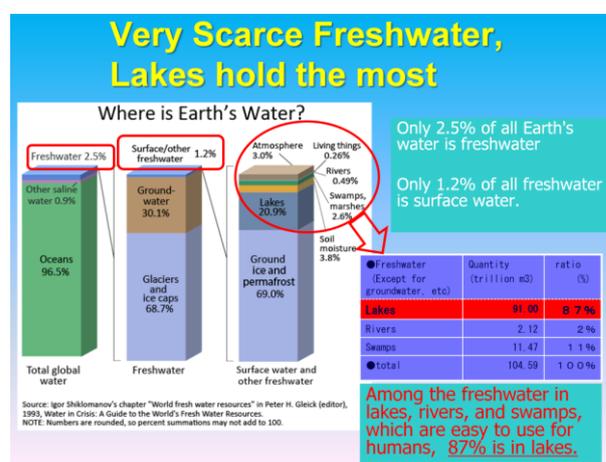
## ■滋賀県■ 第7回世界水フォーラム（韓国）開催

平成27年(2015年)4月12日～17日の6日間、韓国テグ（大邱）広域市およびキョンジュ（慶州）市において、第7回世界水フォーラムが開催されました。今回の会議には、168か国から約41,000名の参加があり、過去最大規模となりました。

滋賀県からは、世界の水政策における湖沼環境の保全の重要性や、30周年を経過した世界湖沼会議の成果、流域治水政策や下水道施策等を世界に向けて発信するとともに、現地視察や関係者との意見交換を通じて情報収集やネットワーキングを行いました。

### 【地方自治体プロセスへの参加】

世界中の地方自治体の首長等関係者が集まり議論を行う「地方自治体プロセス」において、本県の副知事が、スロバキア、韓国の行政担当官らとともに登壇し、地表の利用可能な水の約9割が湖沼に存在することを前提に、琵琶湖の取組を踏まえながら、地方政府や国際機関による世界の湖沼保全に関する行動の必要性を訴えました。



### 【テーマプロセスへの参加】

本県職員が「統合的水資源管理」のセッションにおいて、台風等による洪水被害を最小限にするための新しい洪水管理施策として、「地先の安全度」マップ等の水害リスク情報を住民視点で情報共有することの重要性を紹介するなど、本県の流域治水施策の取組を発表しました。議論を通じて、統合水資源管理を進めていくためのキーポイントは、「水資源に関わるステークホルダーによる知識・データの共有」にあると確認されました。

また、滋賀大学主催の特別セッションには、兵庫県知事や本県副知事等が参加し、国際河川の流域管理や湖沼環境保全について、国内外の問題を共有しながら議論を行いました。

### 【ブース出展】

滋賀大学と共同でブース出展を行い、琵琶湖で急拡大している侵略的水生植物オオバナミズキンバイの駆除活動を行っている国際ボランティア学生協会（IVUSA）の学生や、現地の韓国啓明大学学生とともに、琵琶湖の環境政策や水環境ビジネス情報等について海外にアピールしました。

# ■京都府■ 雨水タンク( )設置補助について

京都府では、市街地における浸水被害を軽減するため、桂川右岸地域の一部を排水区域として流域下水道の雨水対策事業「いろは呑龍トンネル」を整備するとともに、府内市町村でも下水道の雨水対策事業の整備を進めています。

一方で、府民総ぐるみで雨水を「貯める」取組を進め、近年頻発する短時間集中豪雨に対する防災や雨水の利活用に役立てていただくため、市町村と連携して雨水タンク(「マイクロ呑龍」※<sub>1</sub>)の設置費用の一部を補助する制度を今年度、創設しました。

この制度を利用して、できるだけ多くの府民の皆様に「マイクロ呑龍」を設置していただく取組を進めていきます。

※<sub>1</sub> 小さな水貯め施設ですので、いろは呑龍トンネルにちなんで“マイクロ呑龍”という愛称をつけております。

## 1 貯める目的

- ・河川の急激な増水を抑えることによる浸水被害の軽減
- ・貯めた雨水は植物の水やりに使うなど水資源の有効活用 など

## 2 補助対象

京都府内の雨水タンクに対する補助を行っているお住まいの市町村※<sub>2</sub>が補助金を交付する事業

※<sub>2</sub> 京都市、福知山市、宇治市、長岡京市、八幡市、木津川市、大山崎町、宇治田原町、精華町(平成27年10月現在)

## 3 申請者(個人等)が補助金を受け取る方法

補助金をお受け取りいただくには、雨水タンクに対する補助を行っている京都府内のお住まいの市町村の窓口でお申し込みいただきますと、市町村の補助と合わせてお受け取りいただけます。

## 4 補助額

雨水タンクの購入費の3/4(但し、上限あり。市町村によって上限額が異なります。)

自己負担 (1/4)	市町村補助 (1/2又は1/4)	国庫補助 (0又は1/4)	府補助 (1/4)
---------------	---------------------	------------------	--------------

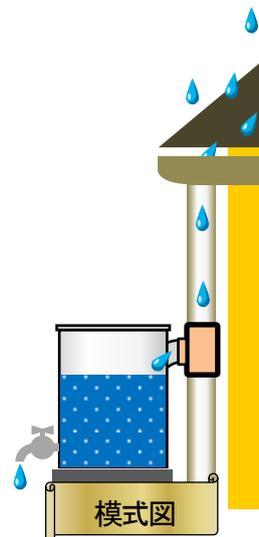
(例) 1基 4万円の場合 補助額: 4万円×3/4 = 3万円  
自己負担額: 4万円 - 3万円 = 1万円



設置事例



広報ステッカー



模式図

雨水タンクの例(京都府庁2号館屋上)

※雨水タンクを設置いただいた方に配付

## ■大阪府■ 安威川ダム周辺の魅力ある地域づくりについて

### ○安威川ダムについて

安威川ダムは、大阪府の北摂地方に位置（図-1）し、淀川水系安威川の治水対策ダムとして、平成32年度の完成を目指しています。ダム予定地は住宅地や駅からも近くアクセスしやすい上、豊かな環境に恵まれており、市民の余暇活動の場としても利用されていることもあり、完成後のダム及びその周辺地域が有効に活用され、人々が集まる拠点となることも目指しています。



図-1 安威川ダムの位置図

### ○地域に愛されるダムを目指した取り組み

ダム周辺地域の保全・活用に関心を持ち、この地域に関わる方及び活動団体を「ファン」と名付け、建設の段階から住民目線の地域づくりを行うことを目指して、環境活動・教育・文化・アート・広報系の団体等で「安威川ダムファンづくり会」を設置しています。

### ○安威川ダムファンづくり会の活動概要

#### ・安威川ニュースの発行

ダムに関するだけでなく、周辺地域で行われるイベントや周辺の自然・景観、歴史や文化等を掲載することで、多くの方が一度訪れたいと感じたり、改めて自らの住んでいる地域が魅力ある場所だと実感できるような内容を掲載しています。



写真-1 安威川ニュース vol.1（紙面一部抜粋）

### ・安威川フェスティバル2014の実施

平成25年度より行ってきた、周辺地域や漁業組合、観光協会の代表者等が参加しての意見交換の結果を受け、ファンづくり会メンバーがアイデアを出し合い、安威川フェスティバル2014を実施しました。地域が考える理想像を基に、アート・デザインの視点等、ファンづくり会メンバーそれぞれの活動分野を融合した安威川を、約400名の方々に楽しんでもらいました。（写真-2）



写真-2 安威川フェスティバル2014の実施状況

### ・今後の活動

今後もさらにファンを増やし、周辺地域の魅力の向上や、保全・活用の推進を目指すため、一般市民や学生等の公募によるワークショップや、マスコットキャラクターを考えるワークショップ、周辺整備の基本構想の策定等を実施していきます。

### ・安威川フェスティバル2015のご案内



昨年の開催に続き、2回目となる今年は、「次世代へつなぐ、学びと出会いの場」をテーマとし、楽しいプログラムをたくさん用意しています。ぜひご来場ください。

【開催日時】

平成27年10月31日  
(土) 10時~15時

【会場】

大門寺北側高台ゾーン

## ■兵庫県■ 多田浄水場の見学会について

兵庫県営水道では、私達が毎日使っている水がどのようにして作られているのか理解していただくため、浄水場見学の見学会に積極的に受け入れています。

淀川水系の猪名川流域には、兵庫県営水道が管理している5浄水場のひとつである多田浄水場が整備されています。

多田浄水場は、一庫ダムを水源とする浄水場であり、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、猪名川町の一部地域に水を供給しています。

平成26年度は、県内小学校や各種団体などから1,072名の方が見学に来ていただきました。

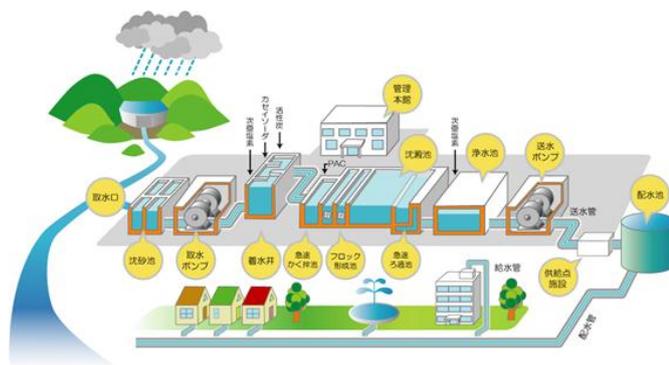
見学にあたっては、最初に多田浄水場の会議室で浄水場のしくみや浄水方法について説明を行った後に、浄水施設の見学に向かいます。

浄水場では、水を処理する順番に施設をまわり、川の水がきれいになって水道水になるまでの過程を見学していただきます。

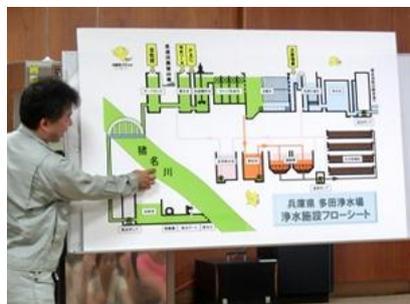
このような見学を通して、水の大切さ、環境への配慮などについて理解を深め、自分達の生活に欠かせない水について考えていただく契機になればと思っています。さらに、県内の各小学校では、学校教育の一環として4年生を対象に浄水場の現場見学を行っており、多田浄水場をはじめ、県営水道の他の4浄水場でも見学者を積極的に受け入れています。



多田浄水場位置図



浄水場モデル図



浄水方法の説明



中央操作室での説明



沈殿池

## ■奈良県■

### 水の週間 親子ダム見学会開催 ～室生ダム・布目ダムと宇陀川浄化センター～

奈良県では、毎年8月第1週の「水の週間」のイベントとして、奈良県民の皆様を対象に、水資源機構と共催でダム見学会を開催しています。

今年は、8月3日（月）に淀川流域にある室生ダム・布目ダムと宇陀川浄化センターを34名の方々に見学していただきました。奈良県水道の水源の室生ダムの上流には宇陀市の市街地や農地が広がっています。この上流域の生活排水を処理する宇陀川浄化センターでは、茶色く濁った汚水が微生物（活性汚泥）の働きや砂ろ過で、アユが住めるくらいの水に処理されていく一連の過程を見学しました。同時に汚水を浄化する微生物を実際に顕微鏡で観察しました。続いて室生ダムに移動し、ダム湖の水質を改善するために湖上に浮かんでいる深層および浅層曝気設備について説明を受けたり、洪水吐きゲートを見学し、堤体の高さを実感しました。

布目ダムでは、堤体内部にも入りました。階段を下るにつれ、どんどん涼しくなっていく様子には子供達は歓声を上げていました。再び、暑い外へ出るとダムの巨大な堤体が目の前に現れ、皆さん思い思いに記念撮影をしていました。最後は「水質実験」と「利き水」をおこないました。水質実験では、pHパックテスト（簡易分析）により、色の変化で水質を確認しました。利き水では水道水と市販のミネラルウォーターを飲み比べ、違いを当てるのですが、冷やした水では意外と違いがわからないとの感想も聞かれました。

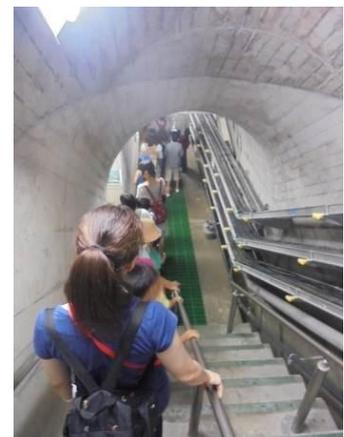
参加者の方々からは様々な質問が飛び出し、浄水場やダムについて高い関心を持って見学会に参加して頂いたことがうかがえました。また、布目ダムや室生ダムは淀川の上流にあると初めて知って驚いていた方もいました。所長を始め管理所の皆さんの丁寧な説明で、参加者の方々にはダムや水についての理解をより深めて頂いたことと思います。この見学会が、水の大切さを身近に感じ、水のことを考えるきっかけになればと思います。



宇陀川浄化センターの見学



室生ダムの見学



ダムの内部へ(布目ダム)

## ■公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構■

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構（以下、BYQ）では、「飲める水 遊べる水辺 次世代に」をテーマに、自主研究や研究助成、広報啓発事業などを通して、琵琶湖・淀川流域の水質保全活動の推進を図り、水環境課題の解決に向けた取り組みをしています。

### こども水質保全活動助成事業

BYQでは、その取り組みの一環として、子どもたちが将来の水質保全活動の担い手となって、地域の川や湖を守り育て、いつまでも遊んだり泳いだりできる水辺環境が次世代に承継されるよう「琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成事業」を平成26年度からスタートしました。BYQのホームページでは、助成団体の皆さんの活動状況を「こども水質保全活動レポート」として、紹介しています。

<http://www.byq.or.jp/kodomo/>

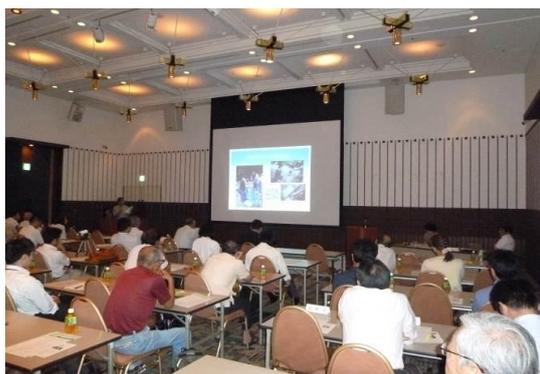


次代の水質保全活動を担う子どもたち

### 成果報告会

それぞれの活動により得られた成果を共有し、交流することにより、世代や地域を超えたつながりを意識し、環境問題を自分ごととして捉え、身近なことから行動できるきっかけづくりとして成果報告会を開催しました。7月29日に開催された報告会では、子どもたちの水質保全活動の指導者の視点から「水環境保全と環境教育」をテーマとした講演のほか、平成26年度の助成団体のうち10団体から活動成果の披露がありました。参加者の皆さんが活動の成果をそれぞれの地域や学校現場に持ち帰り、琵琶湖・淀川流域の水質保全の取り組みが広がっていくことを願うものです。

BYQでは、今後ともこうした取り組みにより住民の皆さんや行政とともに潤いのある流域社会を形成していきたいと考えています。



琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成 成果報告会

